

母の 678 ひろば

doshinsha / haha no hiroba



ことばのなかのこともたち⑧／今井和子 2
耳で聞く小さなおはなし「ホンのちよっぴり」②／村中李衣、石川えりこ 3
疫病と予言する妖怪／常光徹 4
新刊紹介／飯塚須磨子 6
まるまるめいた日記⑧／種村有希子 7
イラスト／パーサンスレン・ボロルマー

ペシャワール会・中村哲医師

長野ヒデ子

「アフガニスタンで中村先生が銃撃された」という、福岡の出版社・石風社の^{ふくもとみつじ}福元満治さんからからの電話に驚愕したのは昨年の12月4日。あれからもうすぐ1年が経とうとしている。

中村^{てつ}哲さんとの出会いは、今から40年以上前、福岡に引っ越して間もない頃。家族で通った無教会派クリスチャンの家庭集会で、九州大学医学部長だった^{といたなおき}岡田直幹先生と知り合い、その教え子の中に中村さんがいたのだ。

1984年に中村さんをペシャワールに送り出す壮行会にも出席した。幼子の手を引き、もう一人の幼子を抱っこし、緊張している尚子夫人のそばで、中村さんはニコニコ笑ってバカボンのパパそっくりだった。これから大きな偉業を成し遂げる中村さんのイメージとは程遠かったが、きらりと光る意志の強い目の輝きに確かな信頼感があつた。

^{ひょうりょう}飄々としながらも中村さんに人を引きつける強い力があつたのは、叔父・^{ひのあしへい}火野葦平や、港湾労働者を受け入れる「玉井組」を組織した祖父から受け継いだ男気ゆえだろう。並みのクリスチャンでない懐の深さを持ち、「人道支援をする^{ひょうりょう}と何が得られますか？」との若者の質問には、「何もないが、男が上がる！」とひと言。異なる意見が出たときも決して否定せず、「よくこの質問をしてくださった」と相手の考えを受け入れ、そして穏やかに納得してもらえよう語り掛けていた。「長年連れ添った女房でさえ、何を考えているのかわからない。人を理解するということは並大抵でない」と笑いを入れながら相手に寄り添う姿勢は一貫していた。

それは自然に対しても同じだ。アフガニスタンでの水路工事でも福岡の^{やまだ ぜき}山田堰を参考にし、「川だって意志も『人権』もある。それに逆らわない」と。中村さんの言葉に力があるのは、現地での体験があるからだ。体で受け止め、体を通して語られる。「裏切られても裏切り返さない誠実さこそが、人を動かすことができる」を信条にしていた。

2001年、テロ対策特別措置法案を審議する際に、衆議院特別委員会で参考人として呼ばれた中村さんが、軍事行為を支援すれば日本への信頼が損なわれるとして「自衛隊派遣は有害無益」と堂々と答えられたことは忘れがたい。

中村さんとの出会いから、実に私は生きる指針を教えられた。それらをしっかりと未来に繋いでいかなければならない——アフガン土産にいただいた大きな鉄のスプーンで私は自分の頭を「こら！」と叩く日々である。

(ながの ひでこ／絵本作家)

ことばの

なかの

8

今井和子

いまい かずこ／子どもことば研究会代表。二十三年間の保育士勤務のち、立教女学院短期大学教授などを歴任。
主な著作に『0歳児から5歳児―行動の意味とその対応』（小学館）『子どもことばの世界』（ミネルヴァ書房）などがある。

こどもたち

●一九四五年八月六日の広島を描いた絵本『おこりじぞう』（金の星社）を、年長組に一週間、読み語ったことがありました。そのひと月後、園庭に出たときのこともたちの会話です。

みよし君（六歳）

「ほんとうにあついなあ」

ゆたか君（五歳）

「広島の人ば、原子爆弾で

もつともつと あつかったんだよ」

みつる君（五歳）

「そうだよ。もしぼくたちが

広島の人だったら、

もう死んでたんだよ」

絵本とことも

戦争の恐ろしさや原爆の悲惨さが、心に強く残ったのでしょう。絵本の内容をつかみ取り、身体で覚えていたからこそ出てきたことばではないでしょうか。

私の記録では、年長組になってからでないところの「もしも……」ということばは、ほとんど聞かれることがありません。仮定形のことばによって、自分たちと原爆で亡くなった多くの広島の人たちを、置き換えて考えることが可能になっていたのです。自分を客観視できる入り口に子どもたちは立っています。どの子ども大人になったとき、相手の身になって考えられる人になってほしいと願えばこそ「もしも……」ということばは貴重です。絵本やおはなしの世界で、このような置き換えをしながら登場人物の身になって考える子どもたちの姿を、私はこの上なく頼もしく感じています。

耳で聞く小さなおなはし②

「ホンのちゅっぴり」

文・村中李衣 絵・石川えりこ

ちくちく

今までだれにも言わなかった話があるの。小学校二年生の三学期。学級委員長を決める選挙があつてね、わたし、委員長になりたい！ っと思つたの。もしなれたら、きつとお母さんが喜んでくれるはず。それで、うんと考えて、たった一人のお友達に「わたしハルちゃんに投票するから、ハルちゃんは、わたしに投票して」って言った。

いよいよ選挙の間が来て、投票の白い紙が配られたとき、どうしても当選したくて、ハルちゃんの名前を書かなきゃいけないのに、こっそり自分の名前書いてしまった。ばれないよね、ばれないよねって自分に言い聞かせて。

ところが、結果は、ハルちゃん〇票。わたし、一票。ハルちゃんは、ちゃんと約束守ってくれたんだ……ああ大変なことをしちゃった。もう、ハルちゃんにあわせる顔がない。いつもはふたりで一緒に帰るのに、その日はいつまでもひとり



でじつと教室に座つた。そしたら、ハルちゃんがそばにきて「かえろ」ってちいさな声で言ってくれた。涙が出そうになった。なのにわたしときたら、「かえらない！」って怒つたみたいな声で言っちゃった。ひとりで帰っていくハルちゃんの背中の桃色ランドセル、今でもまだ覚えてる。

『むねがちくちく』に出てくる「わたし」は言い合いをしてしまったリリちゃんに「ごめんね」って言えた。すこい。

リリちゃんは「いいよ。だれでもクセあるんだから」って言った。かっこいい。ふたりはふたりでちゃんと、胸のちくちくを消したんだよね。わたしもあのとき「やくそくやぶってごめんなさい」ってハルちゃんにちゃんと謝って、一緒に帰っていたら、こんなふうにいつまでも胸がちくちくしないですんだのになあ。



むねがちくちく
長谷川集平 作・絵

新型コロナウイルスの感染拡大とともに、混沌とした不安と重苦しい空気が日本列島を覆っている。治療薬やワクチンが確立されていない現状で、未知の病魔にどう対処すればよいのか。手探り状態の日々が続いている。出口の見えない状況にあって、一躍脚光を浴びたのがアマビエだ。江戸時代の弘化三年（一八四六）に、肥後国（熊本県）に出現。「当年から六年のあいだ豊作だが、しかし、病が流行る。そのときは早々に私の姿を写して人々に見せよ」と告げて海中に入ってしまったという。私の姿を見れば悪病を免れるというメッセージが、新型コロナウイルスの感染に^{おの}怯る人々の注目を集



（図1）編集部員のデスクに貼られているアマビエのイラスト

疫病と 予言する妖怪

常光徹



イラスト／
バーサンスレン・ポロルマー

つねみつ とおる／1948年高知県生まれ。国立歴史民俗博物館名誉教授。民俗学の著作に『学校の怪談—口承文芸の展開と諸相』（ミネルヴァ書房）『しぐさの民俗学』（角川ソフィア文庫）『折々の民俗学』（河出書房新社）、子どもの本に『学校の怪談』シリーズ（講談社）『怪談オウマゴダキ学園』シリーズ（責任編集／童心社）などがある。

めた。多くの人がSNSでアマビエの絵を投稿するなど、大きな反響を呼び、愛嬌のある姿が瞬く間に広がった（図1）。豊作や流行病を予言したあと、疫病を逃れる方途を告げて去って行ったという

妖怪はアマビエだけではない。江戸時代後期に各地に出没した神社姫、姫魚、クダン（件）などは、同じ性格をもつ妖怪である。予言獣とも呼ばれるこれらの妖怪について、その特徴を紹介しよう。

文政二年（一八一九）の夏、江戸ではコロリと称する痢病（赤痢）が大流行した。コロリとは、感染するとあつという間に命を落とすところからの命名だろう。当時の惨状については、加藤曳尾庵の日記『我衣』に詳しく記されているが、興味深いのは、コロリ騒動の最中に異形の魚の絵を売り歩く者がいたことである。日記によれば、異形の魚は肥前国（長崎県および佐賀県）に出現している。「我は龍宮よりの御使者神社姫というもの也」と名乗り、当年より七年のあいだ豊作だがコロリという病が流行する。我姿を絵に描いて見れば病を免れる、と告げたという（図2）。家々では神社姫の絵を写し持っていた。知識人であった曳尾庵は、その有様を「愚俗の習わし」と冷ややかに書いているが、しかし、為す術もない庶民にとっては、一縷の望みを託す切実な手段であったにちがいない。日記の背後には、人々の不安に目をつけて、神社姫の効用を喧伝し、摺物^{すりもの}を売り歩く者の姿も見え隠れする。

文政二年という年は、神社姫だけでなく姫魚と呼ばれる予言獣が各地で話題になっている。頭に二本の角をもつ女の顔で、それ以外は魚の姿をしており、予言内容は神社姫と変わらない。双方とも人魚の仲間、病を避けるには「我姿を見

るとよい」と説く点は、予言獣に共通する類型的な内容である。

文政二年の記録は、アマビエ出現の二十七年前である。

コレラの流行とまじない

コレラがわが国で最初に流行したのは、文政五年（一八二二）である。感染力が強く致死率が高いため、人々から恐れられた。安政五年（一八五八）から三年間に及ぶ大流行では、各地で夥しい数の死者がでた。当時、宇佐村（高知県土佐市宇佐）真覚寺の住職だった井上静照は、猛威をふるったトンコロリ（コレラ）について、その実態を日記に書き留めている。

宇佐村は、鯉節の生産で知られる漁村で、製品は大坂の市場にむけて市艇船で運ばれた。そのため、上方とは交流が盛んな土地柄だった。トンコロリに関する日記の記述を追っていくと、大坂通いの船乗りたちが現地で感染し、それが宇佐に持ち込まれた可能性が高い。安政五年九月四日条に「福島（隣村）の男市艇にて大坂へ上り右の病にて死去し、宇佐の男は病にはかかりけれども死せず帰帆の由」とある。乗組員が全員死んで空船になったなど、船での惨状を物語る記事は



（図2）神社姫『日本庶民生活史料集成』15巻（三一書房）より

少なくない。

今回の新型コロナ

ウィルスでは、クルーズ船や米

空母で感染が拡大し、船内の危険性と対応の難

しさが浮き彫りになった。市艇船の場合、

乗員は少ないが狭い船中での飲食が被害

を増大させたのだろう。

トンコロリの不安は宇佐村でも現実となった。しかし、得体の知れない病魔を相手に有効な手段があったわけではない。

もっぱら、神仏への祈願やまじない頼みで、人々は飛び交う噂にすがりつくように奔走した。九月七日条には「誰が言い出したのか、八つ手の葉がこの病をよく払うということで、弘岡の者が売りにきた。村の者はこれを買ひ門口に吊っている。隣村の福島では家ごとに買ひ求め、柵の葉と蒜と八つ手と三つを合わせ、門に張った注連の真ん中に括り付けている家もある。また、紙に『この家を除けて通れよトンコロリ大師この世にあらん限りは』という歌を書いて貼っている者もある」とある。普段はほとんど用途の

ない八つ手の葉だが、需要が急増したのだろう。葉一枚が十二文または十六文で売られ、日記には「弘岡の男はよき銭もつけ有り」と記されている。人々の不安や品不足に乗じて、一稼ぎを企てる人物はいつの世にもいるようだ。

日記を読んでいると、未知の病魔に對峙する人々の態度やそこに潜在する意識は、時代を隔ててもさして変わっていないように思われる。

クダン（件）の予言と戦争

人の如き顔に牛の体をしたクダンも、江戸時代後期に出現した予言獣である（図3）。明治以降もたびたび出現し人々の口の端に上った妖怪で、内田百閒や小松左京の作品でも知られている。クダンは、明治に入ると疫病だけでなく、戦

争の予言もするようになる。「名古屋新聞」明治四二年六月二一日号には、十年前に肥前国五島の奥島でクダンが生まれ、生後三十一日目に「明治三十七年には日本と露西亜と戦争する」と言つて死んだそうなので、という記事が載っている。

第二次世界大戦の末期にも、クダンが生まれて予言をしたとの噂が流布した。立石憲利編『戦争の民話・Ⅱ』によれば、岡山県哲西町でクダンが生まれ「日本は戦争に負ける」と言つて死んだとの噂が広まった。村人は、戦況の悪化を肌で感じていたが、直接口には出せなかった。

戦争が終わってから「クダンの言つたのは本当だった」と話したという。人々はクダンという予言獣に仮託して、その本心をのぞかせている。予言とは、人々が心の内に抱えている不安の表出と言ええることもできよう。

予言する妖怪は、江戸

時代の方、疫病や戦争といった危機的な事態と

かわつて蘇り、人々の

共感を呼び起こしてきた。

こうした文化の水脈は、

新型コロナウィルスの危

機を背景に話題になった

アマビエにも受け継がれ

ているに違いない。



（図3）件獣之写真 慶応3年（1867）個人蔵

ビッグニュース！ せとうちたいこさんがふじさんに登るんだって！

飯塚須磨子



せとうちたいこさん
ふじさんのぼりタイ

長野ヒデ子／さく
本体価格 1300 円＋税

たいこさんはなんでもやってみたいタイのおかあさん。瀬戸内出身のたいこさん一家は転勤族、富士山の見える海にやってきたのには驚いた。

まあ、表紙を見てください。こだいちゃん引き連れて富士山にシャキシャキ登っているではありませんか。ページを開くと、あっ！ お馴染み、たこさん家族もいますよ。目の前には富士山が広がっています。ほればほれする富士山を見ているうちに「ふじさんと ともだちになりたーい」となんと富士山のふもとまでやってきたたいこさんは、富士山とおしくらまんじゅうや手遊びをしたり……こんな豪快なことある!? 富士山に「♪ノミガリュックをしょってふじとざん～ノミもタイもみんなのぼっておいでよ」と誘われ、大自然の包容力を持つ富士山に魅せられて、早速こだいちゃんを引き連れていざ富士登山。たくましいたいこさんに富士山のいきものたちも目をぱちくり。てっぺんでは美しいご来光！ 見開きにわたって描かれていて荘厳な風景に感動！ 頂上の眺めは最高！「♪富士山のうえで～おにぎりを～」ぱくぱく食べて元気いっぱい。

こだいちゃんの「ふじさんは きょうだい いるの？」という質問に「きょう代は いっぱいいるぞ」と、全国各地の富士のつく山がいったい登場、なるほどと感心させられます。富士山は日本中の山の長男、みんなのあこがれの的なんですね。富士山が自分の生い立ちを話す中で「たまには ばくはつ するんじゃ」と言ったので、たいこさんはびっくり。「もう かえりタイ！」と一目散にかけおける。そしてふもとではお楽しみが待っています。なんでしょうね。

シリーズ第1作『せとうちたいこさん デパートいきタイ』から25年。少しはおとなしくなっているかと思いきや、どうしてどうして、ますます好奇心旺盛でバイタリティにあふれている。なにしろ世界遺産に登録された日本一の山、富士山に登ってしまうのですから。

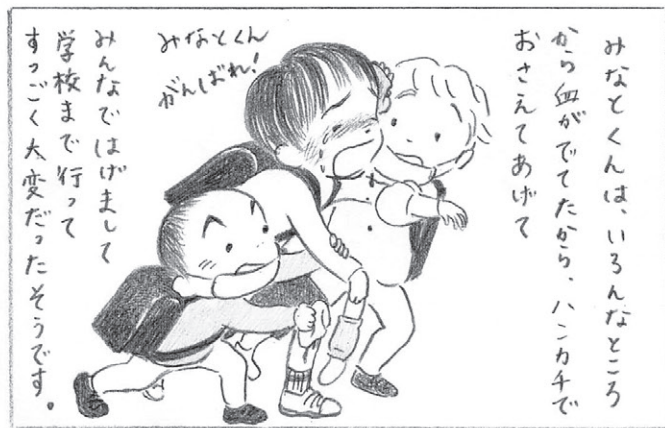
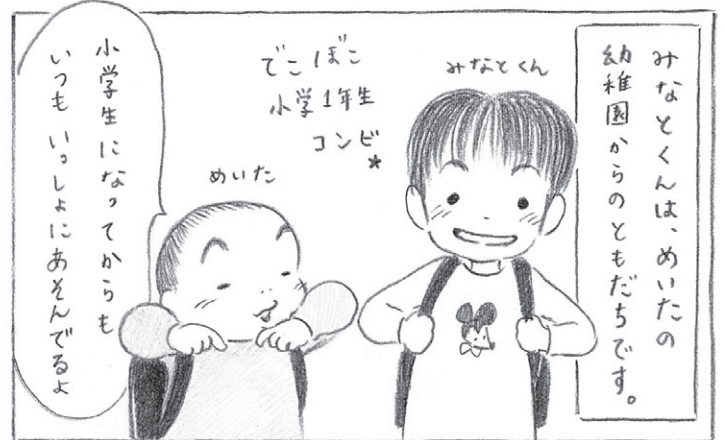
ふじさんと遊んだり歌ったり、やることなすことが半端ではない。シリーズを通して言えることですが、1ページ1ページの手描きの細かい描きこみが楽しい。ついつい笑ってしまいます。

長野ヒデ子さんと何度か一緒にしたことがあります。なぜかびっくり仰天するような珍事がおき、大笑いになります。そんな時、長野さんがたいこさんに見えてきます。つい「たいこさ～ん」とお呼びしてしまいます。たいこさんは好奇心いっぱいの長野ヒデ子さんご自身にちがいません。富士山の見える海は何と我がお店のすぐ近く、毎日富士山を眺めていますよ！ ひょっこり麦わら帽子をかぶってたいこさんが現れるかもね。「鯛」「富士山」「日の出」とおめでタイことづくし。コロナ禍の重たい空気をたいこさん旋風で吹き飛ばしましょう。♪タイタイタ～イ～のたいこさん～それ！

(いづか すまこ／絵本専門店グリム店主)

まるまるめいた日記

種村有希子



11月の新刊図書！

読者の声

絵本・ぼくたちこどもだ

ダンブえんちようやつつけた

ふるたたるひ、たばたせいいち／作
本体価格 1500円＋税



『おしれのぼうけん』もそうでしたが、子ども達の心の声がよく表現されていて、自分も小さいころこんなふう思ったことあったっけ……と気付かせてもらいました。子どもに読み聞かせしたのですが、四歳でも話の中にどんどん吸い込まれる、楽しい絵本だと思いました。

(北海道 M・S 三九歳)

だいき絵本
はるかちゃん、手をあげた

服部千春／作
さとうあや／絵

本体価格 1000円＋税



知り合いの小学六年生のお子さんが場面緘黙症でコミュニケーションをとるのが苦手なのですが、二人で話しているとき質問したら、小さい小さい声だったけど、いろいろと答えてくれたのでした。そんなこともあってこの本を買いました。なぜ、話し出せないかわかったり、はるかちゃんのクラスで雰囲気を感じたり、ほのぼのとした絵がとってもいいです。担任の山口先生、となりのあきらくん、いいなあ！

(長野県 Y・O 六七歳)

絵本・こどものひろば

やまからにげてきた

ゴミをばいばい

田島征三／著
本体価格 1300円＋税



表紙・裏表紙のどちらからも読むことができることに、まずびっくりしました。すこし難しい内容かなと思いつつ、三歳の息子がはたしてどれだけ理解してくれかねと心配していましたが、どちらからも読むことができることに興味を持ち、何回も繰

り返し読んでいたうちに、「こみはどこに行っちゃうのかな」というようになりまして。大人として、ドキリとさせられる発言でした。

(埼玉県 R・K 三四歳)

単行本図書

きせきの海をうめたてないで！

キム・ファン／著

大田黒摩利、たかおかゆみこ／絵
本体価格 1450円＋税



本のおかげで、貴重な生き物たちの叫びを聞くことができました。孫やこれからの未来を生きていく人たちにぜひ読んでほしい一冊だと思えました。写真も多いし、生き物のイラストは温かく、共感もできました。キムさん、これからも頑張ってください。

(徳島県 H・T 七〇歳)

童心社のおはなしえほん
きょう、おともだちができたの

得田之久／作
種村有希子／絵

本体価格 1300円＋税



とてもほんわかした、絵が綺麗な絵本でした。読みやすさもありますが、女の子のけなげな姿や、お友達ができたと喜びが伝わってきて、幸せなひとときを過ごした気分になりました。

(北海道 R・M 四三歳)

あとがき

●「何もせず過ぎてしまったいちにち」のおわりににぎっている膝の皿」(穂村弘『水中翼船炎上中』講談社)ほんの瞬間なら、善い人として立派に振る舞うこともできます。しかし数十年も、こつこつ人々のために尽くし続ける……そんなことは到底できません。中村哲さんのように生きるのは無理でも、自分なりに「井戸を掘って」いかねばと思うのですが。◎

●先月、取材で戦争体験者にお話を伺う機会がありました。大文字の歴史の前にある、それぞれの個人の生活史。人に会い、語りを聞き、それらに触れることでしか見えてこない無数の「戦争」があるのだと実感しました。振る舞っていたいたカンダバージュシー(戦中・戦後に食べていたという雑炊)の味がなかなか忘れられずにいます。①

2020年11月15日発行(毎月刊)

母のひろば 第678号
定価50円(年600円/送料とも)

発行所: 童心の会
〒112-0011 東京都文京区千石4-6-6
株式会社童心社内
電話: 03(5976)4181
03(5976)4402(編集)
編集発行人: 大熊悟
童心社のホームページ:
<https://www.doshinsha.co.jp/>
デザイン: 谷口広樹

定期購読のご案内

おハガキにてお申し込みください。下記QRコードからもお申し込みいただけます。見本誌(無料)と振込用紙をお送りいたします。

見本誌に同封されている振込用紙で購読料をお支払いいただけますと、手続き完了となります。購読料金は1年分600円(送料とも)。

